

社会科・家庭科学習指導案

日 時	令和5年9月15日（金）	授業会場	家庭科室
授業学級	2年D組（41名）	授業者	丸山 進一・小林 輝紀
研究者	丸山 進一 武井 正樹	恩河 梢	富田 武 小林 輝紀

1 「あさひのユニット」における社会科・家庭科の研究内容

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説には、社会科地理的分野「地域の在り方」において、地域の課題を見だし、解決方法を構想する学習、技術・家庭科家庭分野（以下、家庭科と表記する）「家族・家庭や地域との関わり」において、地域の生活の中から課題を見だし、課題を設定し、適切な解決方法を選んで、計画、立案し実践する学習が、それぞれ位置付けられている。これらの学習は、それぞれ身近な地域を対象として、地域の課題を見だし、よりよい地域を創り出すために、自らできることを考えたり、実践していこうとしたりする単元・題材で展開される。具体的には、社会科の学習では、地形図などの地域の資料を基にして、地域の特色を理解しながら、地域の課題を見出すことができ、家庭科の学習では、解決方法を計画、立案し実践することができる。このことから、それぞれの教科で行っていた学習を、「あさひのユニット（教科横断型の授業）」として、社会科・家庭科による教科横断型の授業とすることで、生徒は、地域の特色を理解し、より実生活・実社会を意識した解決方法を選んで、計画、立案し実践することができるのではないかと考えた。

そこで、社会科地理的分野「地域の在り方」の単元と、家庭科「家族・家庭や地域との関わり」の題材を同時期に学習する単元配列を構想した。そうすることで、社会科の学習で地域の課題を発見し、解決方法を構想した後に、家庭科の学習で解決方法を選んで、具体的に計画、立案し、実践することができると考えた。

上記の考えに基づき、単元「南堀地区の方と協働して、地域の課題を解決しよう」において、南堀地区に住んでいる人たちの交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加者が限られてしまうため、孤立化が進むという課題を解決するために、解決方法を計画、立案して地区の方に提案する教科横断型の単元・題材展開を構想する。

このような学習を行うことで、社会科においては課題を多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けて自分の意見や考えをまとめることができ、家庭科において、課題について多角的に捉え、解決方法を選んで、計画、立案することができると考えた。そして、このような学習によって、社会科及び家庭科の研究テーマ、さらには全校研究テーマに迫り、「豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者」につながると考えた。

2 単元名・学年「南堀地区の方と協働して、地域の課題を解決しよう」・2年

3 単元の目標 ※〔 〕内は、中学校学習指導要領との関連を指している

<社会科>

- (1) 地形図などの様々な資料から、南堀地区の地域的特色を読み取り、「私の風土記」にまとめたり、南堀区長と社会福祉協議会職員へのインタビューから、地区に住んでいる人たちの交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加者が限られてしまうため、孤立化が進むという課題があることを理解したりすることができる。

〔C (1) ア(イ)・C (4) ア(ア)〕

- (2) 南堀地区に住んでいる人たちの交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加

者が限られてしまうため、孤立化が進むという課題やその解決方法について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。 [C (4) イ(7)]

- (3) 南堀地区の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を解決するために、主体的に追究、解決しようとする。
- (4) **南堀地区の課題を、人口統計データなどの資料を基にして多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けた取組を考えることができる。【イ 批判的思考力】**

＜家庭科＞

- (1) 家庭生活は地域ごとの相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など南堀地区の人々と協力・協働する必要があることや高齢者との関わり方について理解することができる。 [A (3) ア(イ)]
- (2) 社会科で構想した解決方法について、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現することができる。 [A (4) ア]
- (3) 南堀地区の人々と協力・協働し、よりよい生活の実現に向けて、南堀地区との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとする。
- (4) **南堀地区の課題について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案することを通して、最善の方法を判断・決定することができる。【イ 批判的思考力】**

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	イ 批判的思考力
社会科	<p>知 南堀地区に住んでいる人たちの交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加者が限られてしまうため、孤立化が進むという課題があることを理解している。</p> <p>技 地形図などの様々な資料から、南堀地区の地域的特色を読み取り「私の風土記」にまとめている。</p>	<p>思 南堀地区に住んでいる人たちの交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加者が限られてしまうため、孤立化が進むという課題やその解決方法について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>	<p>態 南堀地区の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	<p>新 南堀地区の課題を、人口統計データなどの資料を基にして多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けた取組を考えている。</p>
家庭科	<p>知 家庭生活は地域ごとの相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など南堀地区の人々と協力・協働する必要があることや高齢者との関わり方について理解している。</p>	<p>思 社会科で構想した解決方法について、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。</p>	<p>態 南堀地区の人々と協力・協働し、よりよい生活の実現に向けて、南堀地区との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。</p>	<p>新 南堀地区の課題について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案することを通して、最善の方法を判断・決定している。</p>

5 社会科・家庭科として、全校研究テーマに迫るための重点1の手立て

- ・南堀地区に住んでいる人たちの交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加者が限られてしまうため、孤立化が進むという課題を解決するために、解決方法を計画、立案して地区の方に提案する展開を位置付ける。 (単元)
- ・「私の風土記」にまとめた南堀地区の地域的特色を基に、解決方法を決め出した根拠についてグループで情報交換する活動を位置付ける。 (本時)

6 単元に寄せた教材化

(1) 単元を貫く問い（単元の学習問題）や単元展開（単元のデザイン）について

日本は、「少子高齢化」「核家族化」「一人暮らし世帯の増加」「地域のつながりの希薄化」といった様々な課題を抱えている。本校が位置する南堀地区でも同様の課題が見られるため、地域のつながりを強め、孤立化を防ごうと様々な取組を行っているが、交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加者が限られてしまい、孤立化が進むという課題を抱えている。そこで、本単元では、単元の学習問題を「南堀地区の人々が、よりつながりをもつために、私たちはどのような活動ができるのだろうか。」と設定した。正解のないこの学習問題に対して、生徒は、南堀地区の実態に合った活動を見いだしていこうとすると考えた。

まず、単元のはじめは、社会科と家庭科それぞれが学習を進める。社会科の学習においては、南堀地区の地形図などの資料から、南堀地区の地域的特色を「私の風土記」(図1)

にまとめていく。「私の風土記」(図1)は、地理的分野

「日本の諸地域」の学習においても使用しているワークシートであるため、生徒は、これまでの学習を活かして、南堀地区の地域的特色をまとめることができると考えた。そして、南堀地区の地域的特色を捉えたうえで、南堀区長と社会福祉協議会職員へのインタビューを行うことで、生徒は、地区に住んでいる人々の交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加者が限られてしまう

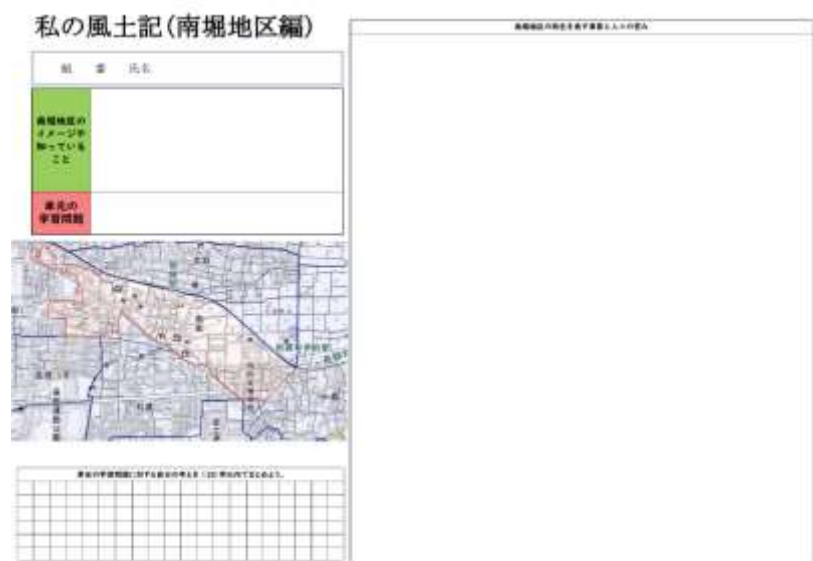


図1 ワークシート 「『私の風土記』(南堀地区編)」

ため、孤立化が進むという課題を理解すると考えた。家庭科の学習においては、家庭外から家庭を支えている仕事を調べる活動を行う。生徒は、家庭生活の衣・食・住・子育て・高齢者についてそれぞれ地域からどのような支えがあるのかを考え共有することで、自分の生活を支える家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることに気付き、将来自身が自立した生活を送っていくためには地域の人々と協働していく必要があることを理解すると考えた。そして、「時間軸」と「空間軸」の視点で自分が地域・社会でできそうなことをまとめていくことを通して、中学生という立場でも地域に協力・協働することができることがあることを見通していくと考えた。

以上のような学習をしたうえで、教師は、社会科・家庭科共通のガイダンスを行い、単元の学習問題「南堀地区の人々が、よりつながりをもつために、私たちはどのような活動ができるのだろうか。」について、社会科と家庭科の2教科から考えていくことを提案する。生徒は、社会科では、地区に住んでいる人たちの交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加者が限られてしまうため孤立化が進むという課題に対して、解決方法を構想する学習を行い、家庭科では、社会科で構想した解決方法について、適切な解決方法を選び、具体的に計画、立案していくという学習の見通しをもつことができると考えた。

ガイダンス後は、まず社会科の学習を行い、その後、家庭科の学習を行う。社会科の学習において、生徒は、地域の課題解決に向けて、「私の風土記」(図1)にまとめた地域的特色を基にして、解決方法を多面的・多角的に考察していく。その後、教師は、生徒が考

えた解決方法を分類し、類似した考えをもった生徒から成るグループを編成する。そうすることで、生徒は、それぞれが考えた解決方法を情報交換することを通して、地域の課題やその解決方法をさらに多面的・多角的に考察することができると考えた。家庭科の学習において、生徒は、衣食住の生活など、これまでの学習で身に付けた知識や生活経験などを基に、社会科で構想した解決方法について、適切な解決方法を選び、具体的に計画、立案し、地域の方に提案していく。そして、地区の方からの評価を基に、提案を振り返り、新たな課題を見付け、よりよい計画を検討することで、地域の課題について多角的に捉え、最善の方法を判断・決定することができると考えた。

本単元では、このような学習を通して、社会人基礎力の「考え抜く力」を育成することを目指す。正解のない学習問題に対して、答えを見いだそうとする中で、「創造力」が育成され、社会科の学習での資料分析やインタビュー活動を通して、「課題発見力」を育成することができると考えた。また、家庭科の学習において、社会科で構想した解決方法の詳細な計画を立案する中で、「計画力」を育成することができると考えた。

(2) 本単元における「デザイン思考」や「小さな実践（アウトプット）」の捉え

本単元では、デザイン思考のステップと小さな実践（アウトプット）を、以下のように設定した。

段階	本単元における生徒の姿の例	本単元における位置
ステップ1 共感・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・南堀区長と社会福祉協議会の職員へのインタビューから、身近な地域の課題を知り、その課題解決に向けて取り組んでいる人たちの思いに触れる。 ・自分の生活を支える家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることや、将来自身が自立した生活を送っていくためには地域の人々と協働していく必要があることを理解する。 	社会科 第4時 家庭科 第1時
ステップ2 問題定義	<ul style="list-style-type: none"> ・地区に住んでいる人たちの交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加者が限られてしまい、孤立化が進むという課題を地域の課題として定義する。 	共通 ガイダンス
ステップ3 発想・創造	<ul style="list-style-type: none"> ・南堀地区の課題に対して、解決方法を個人やグループで構想する。 	社会科 第6～7時
ステップ4 試作	<ul style="list-style-type: none"> ・解決方法を計画、立案し、地区の方への提案に向けてグループごとに準備を行う。 	家庭科 第3～4時
小さな実践 (アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"> ・考えた解決方法を、南堀地区の方へ提案する。 	家庭科 第5時
ステップ5 検証	<ul style="list-style-type: none"> ・提案について、対象者や区長さんにインタビュー調査をするなど行い、評価・改善点について検証する。 	家庭科 第6時

(3) 本単元と「あさひのプロジェクト」とのかかわりについて

本単元の学習を通して、生徒は、実社会が抱えている課題を捉え、その課題を解決するために自らが行動するといった学習過程を学ぶ。このことは、「あさひのプロジェクト」において、実社会が抱えている課題を捉えたうえで、自身の興味関心や強みを活かした活動を決め出すことにつながると考える。そして、実生活・実社会の諸課題を解決しようする意欲をもって探究していくことができると考えた。また、生徒は、地域の課題の解決方法を地区の方に提案した後に、提案した内容を実践したいと願うことが予想される。本単元の学習後に、生徒は、地区の高齢者の交流の場である「ふれあいサロン」に参加し、解決方法の実践を行う予定になっている。「あさひのプロジェクト」においては、地域課題解決をテーマにしているチームがある。今回の学習を活かし、地域課題解決をテーマにしたチームで実践を継続しようとする生徒もいると考えた。

7 単元展開

〈社会科〉地域の課題を多面的・多角的に考察し、解決方法を構想する学習

全8時間扱い 本時は第7時

段階	○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」	評価の観点	時間
	学習活動		
導入	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題「南堀地区には、どのような地域的特色があるのだろうか。」を設定し、学習問題について予想し、追究の見通しをもつ。 	●態①	1
展開	<ul style="list-style-type: none"> 南堀地区の地形図などの様々な資料を基にして調べ、分かったことを「私の風土記」にまとめる。 南堀区長と社会福祉協議会の職員へのインタビューから、地区に住んでいる人たちの交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加者が限られているという課題があることを知る。 資料や区長へのインタビューから分かったことを「私の風土記」にまとめる。 	○知① ○技① ●思①	2 ～ 4
	<p>【社会科・家庭科共通のガイダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の学習問題「南堀地区の人々が、よりつながりをもつために、私たちはどのような活動ができるのだろうか。」について、社会科と家庭科の2教科から考えていくことを知る。 社会科では、地区に住んでいる人たちの交流する機会が減少し、交流の機会を設けても参加者が限られてしまい、孤立化が進むという課題に対して、解決方法を構想するという学習の見通しをもつ。 	●態①	5
	<ul style="list-style-type: none"> 南堀地区の課題を解決する方法を個人で考える。 	●思①	6
	本時案参照	○新①	7
終末	<ul style="list-style-type: none"> グループで考えた解決方法を全体で共有する。 単元を通して追究したことの振り返りを記述する。 社会科で構想した解決方法を、家庭科の学習で実践することを確認する。 	○思① ○態①	8

〈家庭科〉解決方法を実践し、最善の方法を判断・決定する学習

全7時間扱い

段階	○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」	評価の観点	時間
	学習活動		
導入	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題「家庭生活と地域はどのように関わっているのだろうか」を設定し、家庭外から家庭を支えている仕事を調べる活動を行う。 「空間軸」と「時間軸」の視点から、自分の生活を支える家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることや、将来自身が自立した生活を送っていくためには地域の人々と協働していく必要があることに気付く。 	●態② ○知②	1
展開	<p>【社会科・家庭科共通のガイダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の学習問題「南堀地区の人々が、よりつながりをもつために、私たちはどのような活動ができるのだろうか。」について、社会科と家庭科の2教科から考えていくことを知る。 家庭科では、社会科で見いだした課題とそれに対する解決方法を実践していくという学習の見通しをもつ。 	●態②	2
	【社会科第8時までの学習】		
開	<ul style="list-style-type: none"> 社会科で決め出した南堀地区の課題の解決方法の実践に向けてグループごとに計画・準備を行う。（「南堀地区協力・協働プロジェクト」提案書） ICTを活用して、グループで地域での実施計画を発表し合い、他者の意見や新たな情報により、提案書として検討し、区長さんへのプレゼンを作成する。 各グループで区長さんへ南堀地区の課題解決のための取組の提案をプレゼン発表する。 区長さんからの意見をもらい、評価・改善点について検証する。 	○思② ○新②	3 ～ 5
終末	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して、地域の人々と協力・協働し、これからどのように関わるとよいかを考え、まとめる。 それぞれの考えをグループや全体で共有する。 単元を通して追究したことの振り返りを記述する。 	○態②	6

8 本時案（社会科）

(1) 単元名・学年 「南堀地区の方と協働して、地域の課題を解決しよう」・2年

(2) 主眼

南堀地区の課題の解決方法を考える場面で、「私の風土記」にまとめた南堀地区の地域的特色を基に、解決方法を決め出した根拠についてグループで情報交換することを通して、南堀地区の課題の解決方法を多面的・多角的に考察することができる。（イ 批判的思考力）

(3) 本時の位置（全8時間中 第7時）

前時：「私の風土記」にまとめた情報を基に南堀地区の課題の解決方法を個人で考えた。

次時：グループで考えた解決方法を全体で共有し、単元を通して追究したことを振り返る。

(4) 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言	時間
単元の学習問題：南堀地区の人々が、よりつながりをもつために、私たちはどのような活動ができるのだろうか。				
導入	1. 学習問題を確認し、学習課題を据える。	学習問題：南堀地区の課題の解決方法を考えよう。 ア 前回までに、地区の情報を伝えるパンフレットを作成して解決しようと考えてみたが、友はどのような解決方法を考えたのだろうか。今日はグループで考えたい。	・前時の振り返りを発表するように促す。 ・アのような反応から、学習課題を据える。	3分
展開	2. 「私の風土記」を基にして、解決方法を決め出した根拠についてグループで情報交換する。	イ 私は、人口や都市・農村の視点から南堀地区は一人暮らしの若者やお年寄りが多いので、幅広い年齢の人に地区の情報を伝えるパンフレットを配付するとよいと考えた。 ウ Aさんは、産業の視点から、地域の歴史を活かした観光を考えていた。他の地域から引っ越してきた人には、地区の歴史や観光を伝えることで、地区の取組に興味をもつかもしいない。 エ Bさんは、歴史や文化の視点から、地区の郷土料理のことを地域の方に伝えた方がよいと考えていた。いきなり郷土料理を作ろうと地域の人に呼び掛けても参加者は増えないから、まずは興味をもってもらいように、地区の祭りや郷土料理の内容をパンフレットに入れよう。 オ 作ったパンフレットはどうやって配付しようか。地域の施設やお店においても手に取ってもらえないかもしれない。自分たちで地域を回って、それぞれの家に配る方法がよいのではないか。	・自分の考えを説明する際には、「私の風土記」やタブレットを使い、考えた根拠を伝えるように促す。 ・机間指導で、イやウのような反応を取り上げ、地域的特色を捉える視点の中で、どの視点を重視したのか伝えるとよいことを全体で共有する。 ・具体的な計画や実施方法についての検討が進んでいるグループには、「私の風土記」を基にして、地域的特色に合った取組になっているかどうか確認するように促す。 ・個人で考えた解決方法が大きく異なるグループには、解決方法を一つにまとめるのではなく、様々な解決方法を出し合えばよいことを助言する。	25分
	3. 課題の解決方法をグループで検討する。	カ 私たちのグループでは、地区の情報を伝えるパンフレットを作成して配付しようと考えた。人口や都市・農村の視点から、一人暮らしの人も多いので、幅広い年齢の人に伝わる内容にしたいと考えて、産業の視点から、観光の内容を入れたい。さらに、歴史や文化の視点から、郷土料理の内容もパンフレットに入れたいと考えた。	・グループごとに解決方法を決め出すように促す。 ・解決方法を決め出す際に、重視した地域的特色を捉える視点を、ワークシートに記入するように促す。 ・カのような考えを、全体で共有する。	12分
終末	4. 本時の学習を振り返る。	キ グループで情報交換することで、様々な視点から考えることができ、より地域的特色に合った解決方法を考えることができた。でも、どうやってパンフレットを作ったり、配付したりすればよいのだろうか。他のグループの考えを聞いて、さらに考えたい。	・本時を振り返り、ワークシートに記述するように促す。 【評価】南堀地区の課題の解決方法を多面的・多角的に考えている。	10分